

マスカーニ: 歌劇「カヴァレリア・ルスティカーナ」

トゥリッドゥ＝ ホセ・クーラ (T)

ローラ＝ リリアーナ・ニキテアヌス (MS)

ルチア＝ イレーネ・フリードリ (A)

サントウツツア＝バオレッタ・マオシュ (S)

チューリヒ歌劇場管弦楽団・合唱団

指揮＝ ステファノ・ランツァーニ

演出＝ グリシャ・アサガロフ 2009 年チューリヒ歌劇場 ARTHAUS

ストーリー

19 世紀のシチリアのある村。復活祭の日の朝、教会の鐘が鳴り人々が集まってきます。村娘のサントウツツアが広場で酒屋を営むルチアにトゥリッドゥの居場所を尋ねます。ルチアは息子は酒を仕入れにフランコフォンテに行ったと答えますが、昨晚トゥリッドゥがこの村で目撃されていることをサントウツツアは知っています。人々が教会に入っていくと馬車屋アルフィオの妻になっているローラと 2 人だけになります。そこでサントウツツアはトゥリッドゥが自分を捨て、人妻であるローラと愛し合っているのだと語ります。

トゥリッドゥは兵隊に行く前に実はローラと結婚の約束をしていたのでした。ところが戻ってくるとローラはもう人妻になっていました。トゥリッドゥはローラを忘れるために他の女サントウツツアを愛したのでした。2 人はそれでも幸せに過ごしていました。しかしローラはサントウツツアに嫉妬し、トゥリッドゥを誘惑し 2 人は再び愛し合うようになってしまっていたのです。

サントウツツアは広場にいるトゥリッドゥを捕まえ、問いただします。彼は私を捨てないでほしいというサントウツツアに腹を立ててしまいます。そこにローラがやってきて教会に入っていきます。その後を追おうとするトゥリッドゥにサントウツツアは必死にとりすがりますが、トゥリッドゥに突き飛ばされたサントウツツアは怒りが爆発し彼を呪います。

怒りのおさまらないサントウツツアはそこに通りかかったアルフィオに見境なく 2 人の不倫をぶちまけます。激しく怒ったアルフィオは復讐を誓って退場します。サントウツツアは後悔しますがもう取り返しのつかない事態になっています。

復活祭のミサが終わり、人々がルチアの酒場で酒を酌み交わしていると、アルフィオは作法通りトゥリッドゥの耳を噛み決闘を申し込みます。

トゥリッドゥは酒に酔ったふりをして母親ルチアに、もし自分が帰らなかったらサントウツツアの母になってほしいと頼みます。そしてアルフィオの待つ村外れへと駆けていきます。しばらくして「トゥリッドゥが殺された」という女たちの悲鳴が聞こえてきて幕が降り

ます。

作品について

ピエトロ・マスカーニ(1863- 1945)はパン屋の両親のもとに生まれます。15 曲のオペラ、管弦楽曲、ピアノ曲を残しています。プッチーニとは友人でのちにライバルとなります。第2次世界大戦でムッソリーニに協力したということで財産を没収されホテルで寂しく亡くなりましたが、のちに名誉回復されています。この作品はヴェリズモ（現実主義、真実主義と訳すリアリズム運動）オペラの代表作と言われます。

歌手たち

ホセ・クーラ（T）(1962-) = アルゼンチンのテノール歌手

リリアーナ・ニキテアヌス（MS） = ブカレスト音楽院で学ぶ。チューリヒ歌劇場の中心メンバー

バオレッタ・マオシュ = イタリア出身 1990 年代からヨーロッパ中心に活躍

ステファノ・ランツァーニ = イタリアの指揮者 ミラノ・スカラ座などで指揮 イタリア・オペラの伝統を伝える

第2部 CD でオペラの名曲を聴く

モーツァルト：歌劇 魔笛 序曲 7'14 カール・ベーム ベルリン・フィル

歌劇 フィガロの結婚 序曲 4'17

カール・ベーム ベルリン・ドイツ・オペラ管弦楽団 以上 DG

ヴェルディ：歌劇 運命の力 序曲 アバド ベルリン・フィル

歌劇 椿姫 前奏曲 アバド ベルリン・フィル DG

プッチーニ：歌劇 マノン・レスコー間奏曲 カラヤン ベルリン・フィル (1980) EMI

ワーグナー：歌劇 タンホイザー より第2幕「大行進曲」

シノーポリ フィルハーモニア管弦楽団 コヴェントガーデン合唱団 (DG)

歌劇 タンホイザー より第3幕 夕星の歌(リスト編曲)田部京子 (Denon)

楽劇 ニュルンベルグのマイスタージンガー 第1幕への前奏曲

ヴァルヴィゾ バイロイト音楽祭管弦楽団 (1974) (Phi)

